

あるものを前面に出して、めり張りのあるレイアウトを考えたらいかがかなと思いますし、お礼品だけじゃなくて長井市の季節のきれいな写真を添えるとか、そういう工夫あってもいいのでないかと。これまでだとどうしても同じような並びであるものですから、余りめり張りがないと感じました。その点いかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 委員からご指摘のとおり、お礼品の掲載につきましては、大きく分けて全国のを見てみますと、金額別にやってる部分と、あと種類別の2種類ございます。委員からご指摘のとおり、今まであったものは統一されておりませんので、今後はどちらかにちょっと統一するか検討していきたいと思っておりますし、あと、めり張りのきいたレイアウト等を心がけていきたいと思っております。

○五十嵐智洋委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 最後になります。ベビーボックスは長井市が誇る贈り物だと思います。同じように扱ってるもので、品物が見えない。何を入ってるか、字が小さくて見えない。それで、もっと大きなスペースを確保して、贈り物がつくり出されたエピソードとか、長井市では生まれてくるお子さんに全員プレゼントしてることなど紹介して、強くアピールしてはいかがでしょうかということと、時間ですので検討していただければと思います。

総括質疑を終わります。

鈴木富美子委員の総括質疑

○五十嵐智洋委員長 次に、順位3番、議席番号6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 予算総括3番目となります。午前中、平委員と宇津木委員のほうから

雪の話が出ました。私も雪は本当に、生まれてウン十年じゃなくてすごくたちますけど、雪がいいなと思ってた時代がだんだん雪は嫌だなどという思うような年になってしまいました。同じ長井市ですが、うちは特別、おかげさまで多いので、建設課に、除雪はどうかよろしく願います。

早速予算総括の質疑に入らせていただきます。

私は、子育て応援アプリ運営事業の1点だけです。当局の簡潔でわかりやすい答弁、よろしく願います。

子育て応援アプリ運営事業の内容を聞き、このアプリが使い勝手よく、また多様な子育て支援策を問うために質疑させていただきます。

12月補正予算の中で、子育て応援アプリを導入するに当たり、システム運用保守業務委託料として債務負担行為の限度額38万9,000円が計上されています。

最初にお伺いたします。全国で63自治体が導入しているようですが、子育て応援アプリを導入した自治体からの情報収集や導入効果などの検証は行ったのでしょうか、子育て推進課長にお伺いたします。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 お答えします。

子育て応援アプリは、妊娠中、子育て中のママと家族向けの健康支援、子育て支援のサービスで、スマートフォン、パソコン向けのアプリとして開発されたものです。従来の母子健康手帳をこれまで同様活用しながら、このアプリでは欲しい情報を活用したい時間帯に活用でき、遠く離れた祖父母も情報が共有できるというソフトです。県内では村山市と東根市で既にこのアプリを導入しており、それぞれお話を伺っております。

子育て世代からは、予防接種のスケジュール管理が便利であるとか、成長の記録を家族で共有できる、手軽に地域の子育て情報が得られる

など、好評とのこと。また、子育てや母子保健担当課においても、紙の母子健康手帳との併用により、母子の健康記録をより身近に感じることができ、子育てが少しでも楽になる効果が大きいなどの感想を伺っています。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 2番目ですが、それにつきまして、費用対効果が十分に得られると判断されて導入するという事になってると思いますが、その根拠とか内容についてはいかがでしょうか、子育て推進課長にお伺いします。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 これまで子育て支援に関する情報は、市のホームページ、おらんだラジオのほかに配布物として市報と保健カレンダーがありますが、忙しい子育て世代の皆さんにとっては、配布物を隅々まで閲覧する余裕もなく、常に携帯しているスマホでの情報収集がしやすく、母子手帳の補完手段としても母親の健康管理、子供の成長管理とともに有効と考えております。

係る経費についても、全国で多くの自治体が利用している標準仕様を利用することから価格が低く抑えられており、安定したサービスが見込まれます。以上のことから、このアプリの効果が大きいというふうに考えております。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 今のお答えで3番目のお答えが出たような気がしますが、のせておりますので再度お聞きいたします。

厚生常任委員会協議会の説明で、核家族化により子育て情報の共有化、悩み相談が容易に行えない、また予防接種は種目が多く管理が難しい、このような子育て世代へ安心の提供や負担軽減サービスが必要と説明がありました。子育て応援アプリの導入により、どのような安心が得られるか、また負担が軽減されるかと推定してるのでしょうかという質疑でしたので、今課長

のほうからお答え出たような気がいたします。やはり私も思うように、娘からいろいろ聞けると、予防接種は忘れだったとか、予防接種、何か多いようで、時々風邪引いたりして忘れると、ついつい次はいつの日かなということが忘れてしまうということで、このアプリには大分期待してるようですが、このような点、課長いかがでしょうか、もう一度お願いいたします。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 アプリの共有によりまして、離れて暮らす家族との情報共有と父親の育児参加が促されます。また、情報をすぐに受け取れるという安心感が生まれます。さらに、データとしても保存されるため、万一スマホを紛失してもバックアップにより利用可能で安心です。ほかにも、母子に係る健康診断情報の記録管理、身長、体重のグラフ表示、先ほど申し上げました予防接種管理、地域の子育てイベントの情報収集など、子育てにかかわる情報が手軽に入手できることから、健診や予防接種の受け忘れも少なくなるなど、安心が得られるものと考えています。

さらに、母子健康手帳は健診等で提出することが必要ですので、個別の書き込みが非常にしにくいというお話も伺っております。アプリでは、感じたことを自由に書き込みできます。そういう安心感もあります。さらに、子育て中のお母さんにとって、お子さんをだっこしながらの移動はいつも荷物も多くなっておりまして、通院や健診以外では母子健康手帳を持ち歩くことも余り必要とはなっておらず、そういった意味でもスマホで管理できる成長記録や受診スケジュールなどを常に閲覧できるという大きな負担軽減になっていると考えております。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 大変いいことだと思いますが、続きまして4番目ですが、市内の病院や保育園、幼稚園、児童センターなどの情報

が簡単にアクセスできるように、それらの情報が掲載されているホームページとリンクさせればもっと利便性が高まると思いますが、そのような考えはあるのでしょうか、子育て推進課長にお伺いいたします。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 子育て支援施設として病院、保育園、公園その他の施設の検索が可能となっております。リスト表示や地図表示ができるようになってます。また、ホームページとのリンクも可能なので、市の情報はもちろんのこと、関連する施設やサービスについてスムーズな情報収集が可能となるように進めてまいります。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 また、小児科のホームページにもリンクすることにより、受診の予約もできれば私は思うんですけども、夜中に熱を出したりすると、その時点であしたの朝予約できれば、親も子も待ち時間も少ないし安心できるのではないかと思います、そのような点についてはどのようにお考えでしょうか、子育て推進課長にお伺いいたします。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 小児科へのリンクは行う予定です。現在、市内の小児科医さんでは、それぞれホームページにアクセスことによって予約できるようになっておりますので、リンクすることで受診しやすくなるものというふうに考えております。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 市内の小児科といいますが1件だけになります、置賜病院なんかはできるんでしょうか。2件でした、済みません。置賜総合病院のほうはいかがでしょう。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 小児科へのアクセスはできますが、公立置賜総合病院のほうにはこ

ちらからはホームページへ直接リンクすることは可能ですが、置賜総合病院のほうで予約のシステムをつくっていないとできないので、そちらのほうは現在伺っておりません。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ぜひ、小児科ってやっぱり心配なんです、熱出されたりすると。なので、今後、公立置賜総合病院のほうに協力いただけるような体制をとっていただければと思います。希望なのでお答えは、じゃあよろしくお願ひします。課長、お願ひします。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 置賜総合病院については、二次医療という観点から、直接初診で予約するというようなことはなかなか難しいものというふうに考えてございます。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 わかりました。もしできればと思ったんですが、そんな点でよろしくお願ひしますというか、できないということでしたらできないんですけど、ぜひできればいいなと思ったところでした。

済みません、ちょっとお騒がせしました。次、6番に入らせていただきます。子育て応援アプリを導入するには、やっぱりスマートフォンが必要になりますが、例えばスマートフォンをお持ちでない方、経済的理由でお持ちでない方への対応につきましてはどのようにお考えでしょうか、課長にお伺いいたします。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 確かにお父さん、お母さん世代では、ほとんどの方がスマートフォンをお持ちですが、お持ちでない方もいらっしゃると思います。これまでの市からの情報提供につきましては、市のホームページや市報、保健カレンダーなどの配布物、市からの直接の通知で行っておりますが、それに加えてアプリでの情報提供となりますので、アプリの導入によ

り市報やホームページの掲載を取りやめるということは考えてございません。スマホがなくても子育てに不都合が生じることはないよう、これまで同様情報提供に努めたいというふうに考えております。

なお、パソコンでもインターネットを使える環境があれば、このアプリの一部を利用することが可能となっております。以上でございます。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

そうですね、今の若い人でほとんど持っていらっしゃる方はいないと思うんですが、経済的理由で、やはりスマートフォンってお金がかかると思うんです。でも、スマートフォンがない方はいないかもしれませんが、ぜひ今までどおりのことをやっていただくということで安心いたしました。

アプリの導入につきましてですけど、今対象人数とか何名の方が利用できるというか、を想定していらっしゃいますか。課長いかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 就学前の児童全てを対象と仮定しますと、今現在ですと1,159人が対象となります。できるだけ多くの方に登録していただけるよう、PRと内容の充実を心がけたいというふうに考えてございます。

なお、市の内外にかかわらず、また小さなお子さんがいない場合でも、どなたでも登録いただけますので、子育てに関心のある方にもぜひ登録していただきたいというふうに考えてございます。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 1,159人というお子さんがいらっしゃるということですが、これって兄弟なんかもかぶってるということですよ。課長どうですか。

○五十嵐智洋委員長 金子 剛子育て推進課長。

○金子 剛子育て推進課長 兄弟といますか、お子さんの人数になりますので、実際に登録するお母さんの数とすれば、もうちょっと少ない人数になることになります。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

それでは、厚生参事にお伺いいたしますが、アプリの情報更新の頻度はどれぐらいを想定していらっしゃるでしょうか、お伺いいたします。

○五十嵐智洋委員長 松木幸嗣厚生参事。

○松木幸嗣厚生参事 お答えいたします。

内容に変更があれば随時更新するということをは心がけてやっていきたいというふうに思います。提供する情報によりましては2日から3日に1回の場合もありますし、1週間程度かかる場合もあろうかなというふうに考えております。以上でございます。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

あと、参事にお伺いいたしますが、子育てに関連する厚生部門とか教育委員会などの担当部門の情報も必要と考えられますが、その対応はどのようにお考えでしょうか、お伺いいたします。

○五十嵐智洋委員長 松木幸嗣厚生参事。

○松木幸嗣厚生参事 お答えいたします。

情報の対象になる子育てに関しましては、基本的には市報に掲載している情報を基本に考えていきたいというふうに思っております。

具体的には、所属課で申し上げますと、もちろん子育て推進課、さらに健康課、福祉あんしん課、市民課の厚生部門と、さらに教育委員会になります。学校教育課、文化生涯学習課、生涯スポーツ課、教育委員会総務課の情報が主になると思います。先ほど課長も申したように、兄弟が学校ともかぶるという場合もありますので、そういった情報が主になってくるのではなかろうかなと思っております。

何よりも親に瞬時に情報を伝えて、その履歴も全て手元に見られるということになりますので、お忙しいママさんやパパさんには子育ての情報伝達ないし情報の取得の環境が充実させるということになるかと思っています。

若干具体的な例ということでお示しさせていただきますいたのですが、12月の3日の日、委員も出席なさいましたが、西根の、第9回ですか、市長と女性のふれあいトークの中で、話題としては小児インフルの予防接種の話題であったかなと思います。お答えとしては、お一人2,000円の助成をするという説明、さらには3人目のお子さんの負担を軽減してほしいという中身をいただいたものですが、こういった任意の接種のケースを考えてみますと、市報に例えばインフルエンザ流行期に助成の制度を説明するという事は、これやっております。また、このたびおらんだラジオのほうでは、インフルエンザの予防策ということで、主に手洗いとかマスク着用であるとか適度な湿度を保つといったことをアナウンスさせていただいております。こういった情報、スマホに子育て応援アプリを導入すれば、例えば県の感染情報、保健所から出てきます。こういったタイムリーな情報を入れまして、接種時期の選択をしていただくという情報の提供になるのではないかなというふうに思います。

また、ことは残念ながらワクチンの入手がなかなか時間がかかる年になりました。そういった情報も医療機関等と連携して出せば有益になるのではないかなというふうに思っています。

また、長井市の場合は昨年から歯科保健について力を入れてきてるところであります。歯が生えそろう時期の2歳児とその親の虫歯を予防する2歳児親子歯科健診を実施していますが、受診の実施時期になかなか時間がとれないというようなケースが見受けられるという報告をいただいております。おおむね2歳五、六カ月に

市のほうから2歳児親子歯科健診の通知が送付になりますので、その時点で受診スケジュールをアプリのほうに入力していただければ、その時期に合わせてプッシュ通知が出てきて受診スケジュールの管理ということで有効だと思いますし、何よりも虫歯予防の意識向上につながるというふうに期待しております。

さらに、やはり緊急情報として雨であるとか今回雪であるとか、やっぱり台風などの災害情報を含め、子育て世代に必要な情報を発信する予定であります。

なお、子育て推進課を中心とした厚生部門に教育部門を加え、妊娠、出産、育児までの切れ目のないワンストップサービスを目指しておりますが、いろいろな情報の中で素早く広く周知が必要なものと、また反面、場合によってはですが、保護者の心情の配慮が必要なものもあるのではないかなというふうに思っていますので、十分に精査の上、情報提供をしていくということが必要だというふうに考えておるところです。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 詳しい説明、ありがとうございます。

やはりワンストップって、この間からずっと出ていますが、やはり子育てだけではだめだということ、市のほうでもすごく、最近、丁寧にさせていただいて、安心して子供を育てる環境ができていんだなとわかりました。ありがとうございます。

あと、最後ですが、やはり、スマートフォンだけの世界だと何となく不安なところが、やっぱり年とった私たちにとっては何か不安な気がします。顔とかが本当見えにくい世の中です。そういうことを踏まえまして、母と子供が集えるカフェとか、そういうイベント情報などを利用しやすくてできるような対応もすべきと思いますが、その点は、参事、いかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 松木幸嗣厚生参事。

○松木幸嗣厚生参事 委員おっしゃるように、顔と顔が見えるということで、親子で集える場として、現在、やまがた育児サークルランドを中心に、親子向けの「M a m a さろん」があります。

この「M a m a さろん」の開催でありますとか、交流イベント情報は、子育て世代に、随時、発信していきたいというふうに考えております。

イベント情報は、アプリ内のお知らせ機能、地域イベント情報メニューに入るほか、必要であれば、プッシュ通知にて直接情報を届ける予定であります。

子育て世帯に情報が入りやすくなることで、「M a m a さろん」の認知度も上がってきまして、顔と顔の見える関係というものも促進できるのではないかなというふうに思います。

そのことで、参加者がふえまして、人と人のつながりも持てる仕組みができるものというふうに考えております。

なお、運用開始時期についてですが、本稼働については、来年の4月1日というふうに申し上げているところでございますが、今後の予定としましては、試験運用としまして、来年の2月20日から開始できるように、現在進めているというところであります。

アプリをとるには、検索してダウンロード、通常どおりできることもできますが、スマホにQRコードを読み込んでいただいて、簡単に入手できるという操作もありますので、そういうことも、これは、これまた来年2月15日の市報に掲載するほか、市のホームページ等々にも掲載しまして、チラシなども作成し、PRしていきたいというふうに思っていますので、ぜひ、皆様には登録いただきたいなというふうに思っているところです。

○五十嵐智洋委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 ありがとうございます。

このアプリについては、すごく期待したいと思います。

やはり、最初私も、あれ、スマートフォンかなっていう、ちょっとイメージ的に余りいい思いはなかったんですけど、母子手帳っていえば、私たちが今までやってきて、お嫁に娘が行くときとか、これ、おまえ生まれたときの記録だぞって、こうやってあげなきゃいけないかなんていう思い入れがあったりして、スマートフォンでこのアプリを取り入れるっていうこと自体、どうかなって思ったんですが、いろいろ検索してみると、やはり時代に合ったものであり、こういったものを使うことによって、忙しいお母さんたちの子育てに、すごく役に立っているし、先ほどの参事のお話、課長のお話をお聞きしたら、本当、長井市で、ワンストップで子育てに力を入れていることがわかりましたので、ぜひ、市民の方にもわかっていただいて、このアプリを皆さん導入できるようなコマーシャルをしていながら、子育てをしていただきたいと思います。

私の質疑は以上です。ありがとうございました。

内谷邦彦委員の総括質疑

○五十嵐智洋委員長 次に、順位4番、議席番号4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 本日の予算総括質疑、最後の質疑となりますので、答弁よろしくお願いたします。

10款教育費、3項中学校費、1目学校管理費、委託料334万8,000円、004学校施設管理事業、長井南中学校煙突改修工事実施設計業務委託料162万円、長井北中学校煙突改修工事実施設計業務委託料172万8,000円について、教育参事に